



学校教育目標

「皇子山中学校・校区」を愛し、校区の次代を担う生徒

- ・「やっぱり皇中が好き」といえる生徒（愛校心）
- ・「皇中生」としての誇りをもてる生徒（自信と誇り）
- ・「皇中校区が好き」といえる次代を担う生徒（校区愛）

保護者や地域の願い

- ・元気に、安心して通ってほしい
- ・安心安全な学校になってほしい
- ・心身ともに健やかに育ってほしい
- ・学習、係活動、部活動など、子どもが活躍し認められる場があり、自信につなげてほしい

学校経営目標

- ・地域とともにある学校をつくる
- ・地域、保護者、生徒から信頼される学校をつくる
- ・生徒、教職員が生き生きと活動し、笑顔あふれる学校をつくる

滋賀の教育大綱

未来を拓く心豊かでたくましい人づくり
～人生100年を見据えた

「共に生きる」滋賀の教育～

- ・子ども一人ひとりの個性を大切に、生きる力を育む
- ・社会全体で支え合い、子どもを育む
- ・すべての人が学び続け、共に生きるための生涯

第3期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱

新しい価値と可能性を追求する大津の教育

～多様性を尊重し自立する

人～

- 1 時代を生き抜く力を育む
- 2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整える
- 3 次代を見据え大津の教育を活性化させる教育改革を行う
- 4 社会全体で子どもを育てる
- 5 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進する

- ・調整力や自己指導力などの人間の強みを生かしながら、柔軟な発想や感性で「新しい価値」を創造する
- ・様々な変化を前向きに受け止め、夢や志の実現に向け

「可能性」を伸長する

- ・個性を認め、受け入れる包容力と異なる価値観との調和を大切にする
- ・社会を形成する一員としての自覚、主体的に考え判断し行動できることを大切にする

重点課題

①コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を活かし

特色ある教育活動の実践

- ・地域の活動に生徒が参画・参加することで、皇子山中生の自尊感情・自己有用感を高める
- ・地域の方や保護者が授業・学校行事等に参画・参加するなど地域の教育資源を授業に活用し学校教育の活性化を目指す
- ・皇中生の様子、活動への理解、情報発信の場

②校区の保育園・幼稚園及び4小学校と連携し、一貫した教育の実践

- ・「生命」「人権」を大切にする学習の充実…「学びの礎」を校区で推進する
- ・「自尊感情・自己有用感」等を醸成する取組を実践し交流する
- ・学びのつながりを重視しゴールイメージを共有化する
- ・保育や授業を互いに参観する、職員間の親和性を高める
- ・大切にしたい5つのこと（挨拶・履き物そろえ・身だしなみ・聴くこと・掃除）を共通実践する

③主体的・対話的で深い学びの授業の創造 ～生徒指導の機能を生かした授業～

- ・基礎基本の定着、学びに向かう力の育成、家庭学習の習慣化
- ・皇中スタンダード「考える・聴く・表す・伝え合う」の模索…誰もが実践できる授業の型の確立
- ・授業研究の推進…生徒が自尊感情や自己有用感等を感じる授業の実践
- ・新学習指導要領全面実施…「身に付けさせたい力」の明確化、観点別評価の信頼性の向上

④特別支援教育の充実 ～ 人的環境・教室環境・授業のユニバーサルデザイン化～

- ・個別の支援計画を活用する
- ・教育上特別な配慮を要する生徒への適切な指導と必要な支援、関係機関との連携
- ・本時のめあてや授業の流れの可視化、学習規律の統一（ノートの取り方、机に出す持ち物、ロッカーへのしまい方など）、教室環境の整備

⑤生徒の自尊感情の醸成と人権感覚を磨く

・自他を認め合う学級集団づくり～笑顔あふれる学級～

道徳科や特別活動を充実し、生徒の自己指導力を育成する
支持的風土のある学級経営…規範意識、所属感や自己有用感、自己存在感を感じとれる学級をつくる

- ・異年齢集団での活動の充実…OSK会議、入学説明会、皇中MAKE、オールシーズンボランティア、地域の活動への参加

教職員の資質向上

・教職員が育つ教育風土の醸成

教職員間の高い同僚性の構築…風通しのよい職場環境、一人で抱え込まない、何事も相談できる関係構築⇒チェック機能が働く
互いに高め合おうとする雰囲気づくり

専門性を発揮する教職員…研修機会の確保、小学校教育との連携、OJTを活用し若手教職員及びミドルリーダーの養成、伝達講習会の実施
人権感覚を磨き、人間性を高める…あいさつ、身だしなみ、笑顔、言葉遣い、市民感覚、本校の職員としての自信と誇り

・組織的に対応する生徒指導

生徒・教師の温かい人間関係の構築、保護者・学校の信頼関係の構築
学校不適応の生徒への支援、いじめをしない・させない・許さない雰囲気の醸成
体制の整備…「学校全体」という意識の構築、3学年協働の共通実践、情報の共有化・一元化、報連相の徹底、関係機関との連携

・生徒と向き合う時間の確保につながる働き方改革

長時間勤務の縮減…事務負担の軽減、業務の見直し、学校事務職員の学校経営参画、職員の意識改革と定時退勤日の励行